

浦安とみおか川柳会

五月例会結果

日時： 令和5年5月9日(火)
出席者： 塩見和昭、谷口勝、長谷川智、藤三休、三浦みちえ、森山裕子、山岸順、山口しだれ、山口昇柳

講師： 佐藤青樹

点数
講師 推奨
課題 「無口」互選
講評*佐藤青樹

6 万馬券口にチャックも目が笑う 和昭

5 好きですと無口が薔薇に語らせる 裕子
嬉しさに声を出したくなるのを押さえるのは大変
擬人法 よくできている

4 喧嘩後無口を通す君の勝ち しだれ
「喧嘩して」または「痴話喧嘩」にしてはどうか

喋らない父の手先を母は読む 宣子
ツーカーの夫婦何を言わなくても

体重と歳は女を貝にする 裕子
一読明快 触れられたくない定番

3 勝算があつて無口のまま 順
一読明快の句

姦しい客には蟹のおもてなし 勝
明快 蟹を食べると誰も無口になる

2 検診の結果主治医が押し黙り みちえ
主治医が黙るとこちらも声が出せない

胸の内言わぬが花の思いやり ひかり
読み手に胸の内をゆだねた句

寡黙ゆえ受け身ばかりでまだ独り 宣子
無言館君の心を受け取った

「無言館」は戦没画学生の收藏館 (上田市)

かつ井を我慢している黙秘権 順
「かつ井」のシーン分かる人も減ったか

お喋りな友は静かに棺の中 勝

1 一週間無口通して妻の勝ち みちえ
「一週間」が動くのでは

多数決へひとり私は貝になる 順
大勢は決まっている あがいても仕方ない

好きな子に強く投げた雪合戦 三休
「強く投げる」で無口を表している

御喋りを忘れ頬張るいちご狩り みちえ

女房の小言に黙つてうなだれる 三休
無口同志いざごさ起きぬ夫婦仲

波静か寡黙な人に合わせてる 裕子
ヨガ教室無口なお尻が突然プー

喋らずも目が怒つてる父の顔 裕子

おしゃべりの妻に無口の夫添い 裕子

丹田を親しく気あい対峙する 裕子

理不尽な仕打ちかこてず貝になる 裕子
人の口おしゃべり妻の意志強い

気心を嬉しい気持ち口静思 裕子

もの静か虫の居どころ教えない 裕子
一言も話さず今日は終りかな

無口な目君の心を語ってる 裕子
本の虫図書館通い寡黙人
白寿へと笑顔の影へ親しむる
敗将の兵を語らず頭垂れ

課題「見切り」二人選 山口しだれ選

秀	客	人	地	天	軸
認知症割り切る母の他人の目 物価高論吉がデートしてくれぬ 原発の議論途中に再稼働 おつとめ品買って今夜のフルコース お目当てが捨て値で買える店じまい 黄八丈猫に小判と辞退する 色男金の切れ目が見切り時 卒業へ祖母の着物が胸を張る あきらめて売った途端に騰がる株 コロナからオオタニサンへワイドショー ウワサなど柳に風と受け流す 故郷へ見切りをつける墓じまい 煩惱に見切りをつける除夜の鐘	宣子 ひかる 勝 みちえ 和昭 みちえ 和昭 みちえ 勝 裕子 順 裕子 順 裕子	三休 智 勝 しだれ しだれ 勝 和昭	自由吟	森山裕子選	捨て犬が恩を忘れて逃亡す 一票差空しさ残る議員の差 戦乱の二年目の夜いつ明ける クローンへ生きたい様に生きてみる ミス多発今日を捨てよう明日が来る 嫌な事忘れて暮らす認知症 ガン首の並ぶ謝罪のワンパタン

課題「見切り」二人選 山岸 順選

秀	客	人	地	天	軸
見切り品詰めて売り出す福袋 泥仕合い見切りしましたぞお茶する 見切り品買ってはみたが不用品 傷リンゴジャムへ変身大人気 低賃金頭脳流し止められぬ あすという見えないものを見切っている 無意識に捨てたボトルが旅をする ウワサなど柳に風と受け流す 物価高論吉がデートしてくれぬ 原発の議論途中に再稼働 色男金の切れ目が見切り時 ベランダの特等席はいつもノラ 詳しくはホームページと散り捨てる 会長のゴホンひとつで会議止め 故郷へ見切りをつける墓じまい コロナからオオタニサンへワイドショー	勝 昇柳 智 しだれ しだれ 昇柳 三休 裕子 ひかる 勝 和昭 ひかる 裕子	みちえ みちえ 和昭 順 順 みちえ	お願いの声に愛想の手を挙げる 脱マスク三年分の無表情 我がままはさせぬとリード付けられる 女子会のトーン青春呼び戻す 正直に生きて切られたトカゲの尾 帰省中テールランプが進まない くよくよは五月の風に吹き流す 脱マスク先ずは口角あげてみる 目の術後見たくないもの見せられる		

例会のお知らせ	日時	令和5年7月11日(火) 13:00~16:00
	場所	富岡公民館
課題	「カラー」互選	:3句
	「配る」二人選	:3句
	自由吟	:3句
浦安川柳大会の案内		7月16日(日)
「犬吠」五号	掲載会員句	勝利へは生き甲斐リズム魂だ(昇柳) 庭の梅客に褒められ香り増す(しだれ) 四月号 同じ釜素顔知らずに別れゆく(和昭) 脳活へ挙って咲かず趣味の花(裕子) ロマン追う貧乏もまたついて来る(順) 老いの壁サブリ味方によじ登る(勝) 頷いて母を見送る花筏(みちえ)

川柳いろいろ

没句

一人選（見切り）

無意識に捨てたボトルが旅をする
シュレダー 貴重なお札を紙くずに
ふわふわと春の埃もすぐ終わる
のっぺらぼう記憶無くした頭の中
手切れ金のように見切り小金置く
プロボースナイスショットは何時になる
泥仕合い見切りましたぜお茶する
見切り品詰めて売り出す福袋
若人の日本を見切り外へ出る
マスク郡一人外して自慢顔
タイムセール待つて今夜は鍋にする
卒業へ祖母の着物が胸を張る
値札換え待つて購入見切り品
見切り品買つては見たが不要品
傷リンゴジャムへ変身大人気
低賃金頭脳流失止められぬ

自由吟

ニコニコマーク書き冷蔵庫に張る
上機嫌になる五個の習慣やる
理由がなくても笑おう日向子まね
骨董に入れあげ妻が家を出る
蛇がね自分の尻尾飲み消えちゃった
女房の小言に黙つてうなだれる
飲み会も上司不在で無礼講
新緑へコーヒの香り脱コロナ
AIは選者のくせを読んで吐く
子供の日たこ焼き食べたドイツ村
彼女連れ胸ドキドキで顔合わせ

川柳の理論と実践

新家完司

避けるべき表現（二一）

・慣用語を避ける

青菜に塩 雨後の筍 鬼に金棒 漁夫の利
地獄で仏 高嶺の花 他山の石 立板に水
寝水に水 背水の陣 組板の鯉 焼石に水
足を棒にする 魚心あれば水心 鬼の目にも涙
恩を仇で返す 火中の栗を拾う 勝てば官軍
木で鼻をくくる 窮すれば通じる 歯に衣を着せぬ
このような言葉は誰もが見慣れており、句の中に取り
入れると作品の独自性が崩れるばかりか、既成の比喩
に頼つて安易に作つたとの印象を持たせます。

・常套的な言葉や流行語を避ける

常套的な言葉 母の海 父の貨車 火の匂い 鬼の面
赤い糸 白い画布 一本の藁 酸欠の街
流行語 絵蠟燭 笑い袋 涙壺 賞味期限 縄電車
免罪符 切取線 毬 初期化 消去キー

このような慣れた言葉も誰かが初めて考え出したとき
は新鮮であったはずですが、今では古臭い感じになつて
しまいました。流行語は飽きがきます。手垢のついた
常套的な言葉で表現すると、独創性が薄れ発想や作品
までが古く感じられてしまいます。

・その他注意すべきは上五、下五の言い回しです
上五 負けてきて 言い勝つて 余生まだ
下五 嬉しい日 哀しくて 老い二人

下五 茶がうまい 修羅の道 善を積む
茶がうまい 虹を追う 眉を引く

このような常套的な上五、下五を利用すると、実感
などなくても句をひねり出すことが出来ます。

「余生まだ……虹を追う」「嬉しい日……茶がうまい」
「哀しくて……眉を引く」 適当な言葉を入れると
川柳らしくできます。しかし感動しません。

・意識し過ぎないこと
神経質になる必要はありません。作句するときには氣に
せず、出来上がった作品を発表する前に見直せば
いいのです。

鑑賞 犬吠 令和三年六号より

フラワーライン

・千紫万紅より

命乞いの蠅に似ている手消毒 鈴木純子
コロナの世第二言語は手話が良い 谷口 勝
美容液値段の高い方を選び 斎藤静江
上げ足は取るが持論は言わぬ人 京野幹夫
ステイホームベーターベンに飽きもせず 隆久佳代子
ユルリひゆりと風が染み込む胸の内堂ケ崎智子
請求書見るのが怖いキャツシユレス 大河平隆興
駅ピアノ人の思いがすれ違ふ 萱野澄丞
歯ブラシの消耗違う妻と僕 小松和男
大学に一回行って二年生 高橋半眼

・黒潮集より

阿久悠の歌詞からワクチンをもらう 遠藤砂都市
寝転んでみたい日もある砂時計 林 はな
夜な夜なの子守唄です妻の愚痴 南澤たかお
二重マスクにやつと出番のアベマスク 佐竹明吟
前を向くエピローグ即プロローグ 岡部則正

金波銀波（各地句会報）より

今の世で義理ファーストの石頭 岩瀬定男
喧嘩相手長短知って無二の友 伊藤良江
衛星も後は野となれ宇宙ゴミ 稲葉勝弘
誌上句会仲間意識で実らせる 鶴岡かの
エアコンじゃ歌にならない囲炉裏端 岩井ひさ江
ネジ一つ外れて惚けがまた進む 菊田差知子
最後まで歩けるようにフットケア 高久佳代子
千の波越えてまだある千の波 吉田貞恵
一言居士だれだ会議をまた延ばす 佐野しつぽ
一言が若芽摘んだり伸ばしたり 小倉勝利
人生はちよっぴり辛い露の臺 柳 すみれ
アララララここに入るかコーマールシャル 渡邊ひろし
GOTOの策は裏目に舵を取り 糸川 孝
自然薯と納豆混ぜて長らえる 塩見和昭

互選句 課題「リラックス」令和五年 五月例会

浦安とみおか川柳会

18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
苛立ちをバラのお世話が和ませる	弱いとこ見せて心の鎧脱ぐ	スマホの手巧みに操作高齢者	ワクチンでゆったり寝込み休養さ	叱られぬ日がくれていく妻の留守	添削キー押して心が凧になる	湯煙に心も溶ける雪見酒	おしどりの相手居ぬ間に伸ばす羽根	朝のホームホット一息鳥の声	止まり木の酒に心を遊ばせる	ゴールデン一日乗車の山手線	ひざ枕かなわぬまでもお茶ひとつ	孫の笑顔家の空気が入れ替わり	深夜便昭和の歌を遠く聞く	歌疲れゆったり寝込みまた元気	オミクロンワクチン接種ゆったりす	休日に孤独を楽しむ山歩き	ストレッチピタリと決まり新天地
36	35	34	33	32	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19
												旅疲れ我が家の風呂でリラックス	AIの将棋師範で伸び盛り	ハンモックの中にわたしの城がある	鉄瓶の音が嬉しい午後のお茶	君の名の悲恋に涙流れ出す	別室が何故か落着く倦怠期